

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場や申し送りを通じて理念の共有と実践に努めている。また社内研修においても理念についての講義は必須としている。	会議や社内研修等において理念の共有に努めています。社内研修では代表者が講師になって理念について講義をしています。職員は、その理念を実際の現場においてどのように生かして行くかという視点から研修し、意識の共有を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一人一人が地域の一員であるように、町会活動へご利用者様も含めて積極的に参加している。またホームとしても地域に向けたイベントを開催している	町会活動として毎週1回地域の防犯パトロールに利用者と共に参加しています。また、施設の駐車場を開放し出店、バザーなど地域住民も参加する「みかん祭」も開いています。それらを通して相互理解や地域との繋がりを深めるようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と一緒に参加する町内活動や講義等を受け持ち、認知症に対する理解や支援など地域の方へ広めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族を始め町会長や民生委員、近隣小学校校長、地域住民、他事業者にご参加いただき、ホームでの活動報告や今後の予定を多角的に話し合い、運営に反映させている。	地域の町会長、民生委員、小学校長、同業主の方など多様な職種の方が参加して年6回開催しています。会議では施設からの行事報告や今後の予定等を報告し、それに対し様々な意見をいただいています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の受け入れや定期的な相談、報告を行うことで協力関係を築いている。また行政のイベント等にも積極的に協力し関係作りに努めている。	一般の利用者については定期的な相談、報告を所管課と常に行っています。その他、生保受給者の利用を受け入れていることから生保固有の問題について連絡が多くあります。また、市内の同業者の団体の会合にも出席し関わりを深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を通じてスタッフへ教育している(常にご利用者様の側になって考えるようにしている)	身体拘束をしないケアは、会社が主催し全職員に対して行う年1回の社内研修の場でも毎年取り上げ、施設全体の意識として共有し、その実践に取り組むようにしています。出入り口は夜間を除いて開放しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが社内研修を必須受講として報道等の出来事や事例について話し合う機会を設けるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用しているご利用者様も居るため各関係部署とも繋がりがあり、権利擁護に関する専門家の来所があ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームでの生活に対する不安に思っている事や疑問に感じている事を丁寧に説明するように努めている。契約時にはさらに細かく説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の運営推進会議参加を始め、意見箱の設置や管理者からご要望など伺うなど話しやすい環境を作るように努めている。また必要があれば社内で共有している。	家族の意見の収集は、面談よりも電話によるものが多数です。内容は、「こうして欲しい」など利用者のケアに対する要望が多数です。ケアに対する家族の対応も非常に温度差があり、本当の意見を聞くのはなかなか困難なものもあります。	利用者、家族は施設運営(ケア)について声を上げることが難しい事情もあると思われます。少数意見または声なき声と思われる意見にも注意を払う姿勢が期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開きスタッフの意見を代表者に伝える場所を作っている。その後話し合った内容はスタッフに周知し現場で活かせるようにしている。	1か月に1回職員全員が出席する全体会議を開き、様々な問題について意見を聞いています。そこで意見を代表者も出席する管理者会議で話し合い吸収しています。スタッフ募集の広告を施設に掲示し、地域からパートの採用を実現した例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、スタッフに自己評価をしてもらい代表者との面談の機会を作っている。各スタッフの特性を活かした環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修を開示して参加しやすい状況を作っている。受講内容に関しては現場で活かせるように内容をフィードバックしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市認知症高齢者グループホーム連絡会の活動へ積極的に参加し、各種団体等との繋がりを広げている。他施設の管理者とはお互いの運営推進会議に参加しサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安も多いと思われるので本人が困っている事を話しやすい環境を作り一つ一つ丁寧に回答する事で信頼していただけのような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの方針や考えをお伝えしてご家族様の不安や問題に丁寧に話を伺い一緒に解決出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様と話をして各関係者からの聞き取りと合わせて今何が必要と思われるのか総合的にサービスの利用を検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側と線を引かずに互いに生活をしながら支え合えるように意識しご利用者様にも積極的に活躍していただける場を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームは、ご利用者様を中心とした輪の一員に加えて頂いているというに認識のもと、ご家族様とは共にチームとして支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい知人との電話やお手紙のやりとり、また個別レクで遠方の知人等にお会い出来る様お出かけを実践している。	最近の例として、夫の一周忌に土浦まで出かけ親戚の方と合い、無事法事を済ませたことがあります。また、施設の近くに自宅のある利用者を近隣の方が訪ねて来たり、地域のコーラスに入っている利用者の仲間が訪ねてくることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係が良好に築けるよう、時には見守り、関係が築きにくい場合はスタッフが間に入って橋渡しの役割に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が解約の場合は、その先の生活に支障を来たさない様、ご家族様を始め各関係者との連絡相談を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉や行動から何をしたいのか、どこに行きたいのか常に考えて、出来る限り意向を尊重している。	意志表示の困難な利用者については、日頃の言動から判断してその意向を尊重しています。他の施設に入居している妻と会いたがっている利用者(夫)の気持ちを把握し、家族の協力を得て面会を実現させ非常に喜ばれた例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様からよく話を伺い、習慣や今までの生活環境に近い生活が送れるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の能力や心身の状態を確認したうえでホーム内での役割や楽しい時間を送れるよう主治医の意見も交えて総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開いたり、スタッフ同士で話し合いをして課題になるような事があればご家族様へ相談し現状に即したプランに変更するようにしている。	本人、家族、関係者と定期的に話し合い、状況に応じたプラン作成に努めています。最近では、入退院を繰り返した利用者について、医師から今後の治療は不可能と診断され看取り看護の可能性を打診された例があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活変化シートを使ってスタッフ間での情報の共有をしている。気になる点はカンファレンスを開き次回のケアプランの課題点として把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に緊急時などはご本人、ご家族様の状況に応じてホーム側で出来る範囲で協力・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の活動や行事に、ご利用者様でも参加できるかその都度検討して、出来る事には積極的に参加していただきご利用者様自身の力で地域に役立っているという気持ちになれるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択はご利用者側の意思に沿い、協力医療機関だけでなく、ご入居前からのかかりつけ医に受診されている方もいる。	利用者は、入居前からのかかりつけ医院の受診の際は、家族が付き添うのを基本としていますが、付き添えないときは施設の職員が付き添っています。協力医療機関は24時間対応しています。また歯科医院との協力体制があり、年1回検診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各種記録を始め、申し送り等で特に状態の変化については速やかに報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	独自の介護サマリーを提供しその方の情報提供を行っている。また、医療職との関係作りの為に研修会や各種団体等に積極的に参加し関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針についてはご入居時に事業所の方針をご説明し同意を頂いている。また状態によってはご家族様・医療職や看護職・事業者を交えた三者で話し合い、看取り介護に移行している例もある。	入居時に重度化指針について説明して同意を得ています。また状態によっては医師から家族に看取りの説明を行い、見取り介護に移行する確認書を交わしています。医療者、看護者、施設のスタッフが連携を取り見取り介護を行っています、スタッフは、利用者と一緒に過ごせたことに感謝して最後まで支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	企業全体として全員必須の研修を行いマニュアルを整備している。また市内の救急隊による救命講習も年に一度受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や運営推進会議を通じて地域の方に協力の要請をしている。	年1回消防署立ち合いの訓練を行っています。地域の方の協力マップを作製し、災害があったときは、利用者の見守りの手伝いをする協力体制はできています。また隣にある、同じ経営のグループホームとの協力体制もできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉や態度を常に考えて、自尊心を傷つけないように心がけている。特にプライベートな空間での時間の過ごし方など一人ひとり違うので居室への入室時にも注意している。	スタッフ全員は、利用者を目上の人で尊敬しうる人であることを忘れることなく、尊敬の念をもって接し、一人ひとりを尊重とプライバシーを配慮した支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービスを一方的に提供するのではなく、まずはお伺いしたり、時には選択肢を多く設けるなど、出来るだけご利用者様の意思をくめるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は定めておらず、自由な意思で生活を送って頂いている。またご希望があれば出来る限り柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洋服選びから身だしなみを整えるなどご自身で決めて頂くようにしている。ご自身で判断が難しい方には一緒に洋服を選んだりするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物からご利用者様と一緒に行動で、季節の物や食べたい物を食べられるよう配慮し、調理はキッチンその他にリビングでも行っている。準備や片付けも其々の能力に応じて行って頂いている。	利用者に限らず人は食べるのが大きな楽しみの一つであることを念頭に置き、利用者と一緒に食事の準備を行い、食事の時も会話をしながら楽しい食事時間を共有しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の所見が必要な方は特に記録に残すなどきめ細かく対応できるようにしている。主治医の所見がない方でもバランス良く摂取できるよう声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	強制にならないようにスタッフと一緒にいたり、自力では出来ない方へは介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から個々のタイミングを把握し出来るだけトイレで出来るよう実践している。また、行動や言動から推測出来るよう日々の観察を記録し共有している。	排泄の自立を目指し、排泄チェックシートをもとにトイレ誘導を行い、日中は布パンツで過ごし、トイレで排泄できるように支援を続けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食前の口腔体操を始め、食材には特に食物繊維を意識して取り入れている。また食事形態は個々に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定は組まず、出来るだけ入りたい時に入ってもらえるよう努めている。	入浴時間は決めず利用者の希望に沿った対応をしています。入浴を嫌がる利用者には、利用者が好むスタッフが対応して、週2回は入浴できる支援をとっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	其々のペースで自由に生活して頂けるよう、リビングや居室への行き来はご利用者様の意思で動いて頂き、夜間は物音を立てない様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時には主治医への情報提供を基に診察・薬の処方をして頂いている。また提携薬局とは処方時に、情報共有・確認をしながら適切なアドバイスを頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	其々の得意分野で活躍出来る場を設ける様ように配慮している。また1、2階を上手く活用し気分転換出来るよう協力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調、出掛けたいという気持ちは特に大事にし最優先で行っている。また個別で外出する際にはご家族様も同伴される事もある。	日常的には買い物と一緒にいき、外出支援を行っています。天気の良い日はテラスに出て外気浴をして楽しんでいます。また普段いけない遠方に家族と一緒にいくこともあります。お墓詣りに行ったり、個別支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持は主にご家族様と相談の上で行っている。またバザーなどの際には、ご本人の意思で買い物が自由に出来るよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の携帯電話からご自身で電話をしている方もいらっしゃる。時々お手紙でのやりとりもありご本人の出来る限りの意思を尊重している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はカーテンを開けて出来るだけ自然の光や空気が感じられるように配慮している。またBGMをTPOに合わせて流し心地よい空間作りに努めている。	日中は陽が差し込む居間の大きなソファに腰かけたり、和室でくつろいだりしています。共有の空間にはイベントの写真を貼り、さりげなく花を飾り、施設を感じさせない、自宅と同じ安らぎを与えるような工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルやイスの他にくつろげるソファや、ベランダ・玄関先にベンチなどを設置し自由に使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた家具や物品を出来るだけ持ちこんで頂き、自分だけの空間を実感できるように努めている。	利用者は仏壇、家具、布団、写真等使い慣れたものを居室に持ちこみ、入居前に過ごしていた部屋に近づけて、利用者が居心地良く安心して過ごせるように支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内の全ての場所では制約等は設けず、ご利用者様の意思で生活出来るようにしている。		